

連 載

経済金融用語の基礎知識 < 第2回 >

天然ガス市場の価格メカニズム

安藤 範親

地域性が強い商品

天然ガスは、石炭、石油に並ぶ三大化石燃料のひとつであるが、気体という性質をもつために他の化石燃料と比べ、輸送コストが高い。しかし、その価格は、天然ガスが燃料油や石炭、電気等によって代替可能であることから、価格競争力を高めるために、原油価格よりも低く抑えられる傾向にある。

また、輸送の物理的連続の必要性から、流通経路が限定されてきたため、天然ガスの国際市場は存在せず、消費地ごとに、大きく分けて北米、アジア、欧州(大陸ヨーロッパ)の3地域に市場が形成されている。

地域市場ごとに異なる価格体系

天然ガスは輸送方法の制約から、地域市場ごとに異なる価格体系が適用されている。

北米市場は、天然ガスの地産地消により、託送ネットワークが高度に発達、そのハブとなる地点では、さまざまなガス田から送られてくるガスの価格・量・期日・託送場所に関する裁定取引が行われ、市場流動性が確保されている。なかでも、レイジアナ州にあるヘンリー・ハブは、ニューヨーク商品取引所(NYMEX)で取引引きされる天然ガス先物価格指標となっている。

アジア市場は、日本と韓国が主要取引先で、両国ともガス産出量が乏しいことから、東南アジアや中東からの海上輸送を行っている。そのため、高額な輸送設備を必要とし、その投資債務返済に必要なキャッシュフローを確保するため、長期相対契約が主流となっている。それ故、北米のように流動的なガス取引市場は存在せず、天然ガス価格は、長期契約交渉のもと、基本的には原油価格

にリンクしている。原油価格が比較的安定していた80年代後期から04年までは、天然ガス価格も安定していたが、近年は新興国需要増などを背景とした原油価格上昇の影響で高騰している。

欧州市場は、域内生産や、ロシア、アルジェリア、ノルウェーとつながる大型パイプラインによる配給、中東からの海上輸送といった多様な供給源により市場が形成されている。ただし、パイプラインネットワーク整備の遅れにより、未だ競争的な統一市場は発展段階で、長期契約に基づく原油価格連動方式(北海ブレント原油価格等)にリンクとスポット契約に基づく価格が両立する様相を呈している。

天然ガス価格

図表1から、各地の市場で天災や経済危機、中東情勢不安、需給変化等の影響を受けた価格の動きが見られる。

また最近では、ガス供給量が過去最高水準のため価格が軟化傾向にある北米と、中東情勢不安を受け高騰傾向にある欧州で差が開き、米国へ輸入された液化天然ガスが再び欧州へと輸出される状況も生じている。

